

美々津中学校便り



9月号

文責：鈴木利明（校長）



たくさんの感動と勇気をもらった東京オリンピック・パラリンピック2020が閉幕しました。コロナ禍の中での開催となりましたが、たくさんのアスリートに勇気と元気、そして感動をもらった大会になりました。毎回、オリンピック、パラリンピックを観る度にアスリートの言葉がとても気になります。そして、必ず出てくる言葉が「感謝」です。選手が競技に参加してメダルをとっても、監督やコーチ、スタッフはメダルをもらうことはできませんし、インタビューされることも多くありません。どれだけ沢山の方の支えがあってこの大会が完成しているのでしょうか。競技とは全く関係のないところでも、ボランティアとして支えている人も沢山いました。

そのボランティアの方で話題になった女性がいました。ジャマイカの陸上選手が試合会場を間違えてしまい困っているのを、その女性が気づき、選手のために自分の財布からタクシー代を出して、会場に向かわせました。そして、ジャマイカの選手は試合会場に到着、レース前のアップも万端にできました。そして、結果は金メダルでした。その結果の報告と借りたタクシー代の返金、そしてお礼をするために、選手は親切にしてくれたボランティアの女性に会いに行きました。その様子をジャマイカの選手が SNS で投稿していました。それから、その女性はジャマイカの大使館にまで招待されました。善意の行動とはいえ、自分の財布からタクシー代を出すというのは、そう簡単なことではないと思っています。しかし、このような行動をさせたのは、やはり一人の人として、困っている人がどうしたら幸せになれるか、安心できるのかを考えた行動だったと思います。もちろん、見返りなど期待していることもないと思います。

それとは逆に残念なこともありました。新聞にも掲載されましたが、日本代表の何人かの選手が SNS で誹謗中傷を書き込まれたことです。どんな気持ちで書き込むのか理解ができません。どれだけの準備をして、このオリンピックやパラリンピックに参加できたのか。おそらく、身の回りにある事を犠牲にしてこの舞台に立っているはず。負けたくて負ける選手はいないのです。だから、負けて一番悔しい思いをしているからこそ、あたたかい言葉をかけてあげるのが人としてあるべき行動だと感じています。

パラリンピックのゴールボールに参加した浦田理恵選手がいます。ゴールボールとは、視覚障害のある選手が3人でチームを組んで相手と2チームで戦います。鈴の入ったバスケットボールと同じぐらいの大きさで、ボールの重さは、約1200グラムです。そのボールを転がしたり、バウンドさせたりして相手のゴールにボールを入れる競技です。東京大会で女子は銅メダルでした。その大会に出場した浦田選手がアスリートとして大切な事を3つ言っていました。

①コンディションをベストにすること ②小さな積み重ねを丁寧にする ③笑顔でいることです。これは、アスリートだけではなく、誰でも通用することだと思います。特に笑顔については、自分が常に笑顔でいることで、相手も笑顔になり、空気も変わるそうです。視覚に障害があるので、自分が笑顔でいても見えないから、相手の笑顔が見えないように思いますが、そうではなく、見えなくても相手の笑顔を感じることができるそうです。実際に、今回のパラリンピックでは、「ボランティアの人達の笑顔に救われた」とまで言っていました。

コロナ禍の中で行われたオリンピック・パラリンピックでした。終わってみれば素晴らしい大会でした。多少なりとも、いろんな意見はあると思いますが、日本の国だから開催できたのではないかと思います。根拠はありません。ただ言えるのは、選手やスタッフ、ボランティアの方々すべての人が、必ず成功させようという同じ想いがあったからだと信じています。

防災で命を守る ～防災教育（自分の命は自分で守る）～

夏休み前の終業式の日、「命を守る防災について」の講話を防災士でもあり、学校運営協議会委員長でもある黒木邦寛様にいただきました。邦寛様が区長だった頃、知人の家の裏山が崩れた時に、危機一髪で救い出した時のお話を聞きました。その時は、今までに経験したことのない、見たことのない状況が起きていました。そこで、邦寛様は、持っている知識を使って、危険が迫っていることを察知し、避難を呼びかけて人命救助をしました。いづどこで起こってもおかしくない自然災害です。自分の命は自分の力で守りましょう。



黒木邦寛 様

県いじめ問題子供サミット MRT テレビ取材



生徒会の生活委員会を中心に進められている「いじめの未然防止に関する取組推進校」としての取り組みを発表するサミット（オンライン形式）が行われ、その様子が UMK で放送されました。本校から代表として、長埜蓮さんと黒木茉季さん（共に2年生）が参加し、やさしい言葉の花と、明元素について発表しました。そして、子どもたちが中心になって取り組んでいる様子を MRT テレビが取材し、放映されました。子ども達はやさしい言葉を習慣的に遣うようにしようと前向きに取り組んでいます。

日向入郷英語暗唱・弁論大会 優秀賞おめでとう



本年度は、コロナ禍の影響で DVD 審査となりました。本校から、海野悠真さんと甲斐愛華さんが参加しました。結果は2人とも優秀賞でした。夏休みの前から毎日のように準備を重ね、本当によく頑張っていました。



職業人の話を聴く会 ～キャリア教育計画～



竹田裕見子 様
(土田歯科医院)



奈須祥子 様
(nas hair.)



八尋光樹 様
(専修寺)



甲斐龍一 様
(旭建設株式会社)

日向市内で働いている方に来校していただき、「職業人の話を聴く会」を実施しました。社会人として、今まで生きてきた人生の先輩として、具体的な仕事の内容や人としての生き方、在り方についての講話でした。日頃、知らないことを知るといのは、これからの人生においてとても大切な事です。生徒皆さんの聴く態度や積極的に質問をしたことなど、たくさんの事を褒めていただきました。講話の後のお礼の言葉も好評でした。